

私は連休中、曾於市の「悠久の森」(日本遊歩道百選)へ行って、森林浴をしてきました。日々の時間に追われる生活から、川のせせらぎや鳥の鳴き声などの自然の中で、セロトニン(脳内の神経伝達物質)が大量に出て、心身共にリフレッシュできました。

大型連休が終わり、子どもたちの様子はいかがでしょうか。新たな気持ちでがんばった4月が終わり、疲れ・ストレスが蓄積しやすい時期です。子どもも、そして、私たちおとなも、自分の心と体を大切にしていきましょう。

前号で、通常学級・通級指導教室・特別支援学級・特別支援学校など、いろいろな学びの場があることをお伝えしました。今回は、山崎小の学びの場を紹介します。

■通常の学級

- 一人の先生が教えます。(3年生以上は複式)
通常の学級では、一人ひとりの学習のペースも大切にされますが、集団のペースに重きが置かれます。
- さつま町では、通常の学級において支援を必要とするお子さんに対して、全小・中学校に特別支援教育支援員を配置しています。山崎小は2人ですので、支援が必要な子ども一人ひとりに、特別支援教育支援員をマンツーマンで付けることはできません。担任の先生からの具体的な支援の指示のもと、児童生徒の支援を行います。担任の代わりに授業することはできません。

■特別支援学級

- 1学級最大8人(山崎小はむくのき学級に6人在籍)の子どもたちが学びます。(9人になったら2学級になります。)
- 新年度に入級する児童生徒の人数によって新設されたり、廃止されたりしますので、年度により、学級数は変わることがあります。
- 特別支援学級に在籍したら高等学校等への進

学が難しくなるということはありません。

- 特別支援学級に入級したら、6年間ずっと特別支援学級で学ばなければならないということではありません。入学後もお子さんの状態を見ながら、どの学びの場が更なる成長につながるかを、保護者、学校、町教育委員会が一緒に考えています。

【知的に関する学級】(やまびこ学級)

知的に関する学級とは、認知や言語に関わる発達に合わせて学べる学級です。

配慮や支援を受けながら、その学年までの学習内容を学びます。子どもの理解度により、前の学年の内容を学ぶこともあります。

【自閉・情緒に関する学級】(むくのき学級)

自閉・情緒に関する学級は、こだわりが強かつたり、対人関係の構築が難しかったりするお子さんが学ぶ学級です。

基本的には通常の学級と同じ教科等(国語・算数・自立活動)の内容を、お子さんの状態に配慮しながら学習します。

■通級指導教室(わくわく教室)

- 通級による指導とは、通常の学級に在籍しながら、週に1~2時間ほど(最大週8時間)、状態等に応じた特別な指導「自立活動」を通級指導教室という学びの場で行うものです。
- 現在、盈進小学校に自閉症・情緒面に対応した通級指導教室があり、一人ひとりの状態に応じた指導・支援を行っています。山崎小のお子さんの場合、保護者の送迎が必要です。

このように、困り感をもった子どもの実態を把握し、子どもが安心して学べるよう学びの場を設定しています。もっと詳しく聞きたいという方は、担任、または瀬戸へお声かけください。

